



小笠原流 飯盛宮当流流鏝馬保存会

福岡市無形民俗文化財
保持団体（第六十八号）

八代宗家

会長 榊 信一郎



天保九年（一八三八）唐津小笠原藩初代小笠原長昌公の時代、時の弓馬術指南役今村嘉内より小笠原流流鏝馬の式法を伝授された当社産子、羽根戸村に在住する青柳七右衛門の手に依り代々継承されて来たもので有ります。

戦国乱世の御代も治まり、徳川八代將軍吉宗公により鎌倉鶴ヶ岡八幡宮のご宝前に於いて流鏝馬の式が復活され、爾来各藩に於いても盛大に奉納されてきました。

当社の記録にも慶安の頃より流鏝馬の式始まる、と有り筑前国続風土記拾遺にも青柳家の射手の名が見え、又神社拝殿にも天保十三年九月重陽吉日に奉納された御神弓が今に掲額されており、当社の一大神事として継承されて来た事が伺えます。

現当主榊家は元々青柳の末裔家筋にて、初代七右衛門より代々流鏝馬の式を継承して来た事が判り、流鏝馬の式・馬場の仕様等、又系図をも受け継いでおります。

秋十月九日（旧暦九月九日重陽の節）午後二時、流鏝馬射手三名を中心に法螺貝の合図を先頭にして、神官・的奉行・平射手の馬ノ口取り、そして諸役等凡そ六十名の行列にてお潮井取りの行列から始まります。その後お潮井を神前に奉納し、五穀豊穰国家安泰の祈願を捧げます。

主催者の日記の下知により開始される流鏝馬は、射手七〜八名の騎射により二時間程の時間をかけて奉納いたします。また飯盛を皮切りに、県内十ヶ所あまりの神社にても奉納致して居ります。



演武者

射手	射手	射手	介添	介添	介添	射手	射手	射手	的替	矢拾	進行
松嶋	牛尾	榊	内藤	佐藤	阿部	鶴田	牛尾	榊	榊	榊	榊
盛人	秀人	勇人	安昭	昌博	大郎	宏生	秀司	榊	榊	榊	榊

名譽会長	顧問	会長	副会長	常任理事	常任理事	理事	理事	事務局	外会員
澁田	山本	榊	青柳	松嶋	因嶋	内藤	佐藤	牛尾	三十二名
勝重	伸幸	信一郎	繁貴	盛人	勝次	安昭	昌博	秀司	

養神館合気道 龍修館



養神館合気道 四段
指導者資格取得

脇山茂幸

昭和四十年生

合気道の神様と言われた故塩田剛三先生が設立された養神館合気道に所属。

塩田先生の内弟子であった養神館合気道 安藤每夫主席師範の門下の団体です。

福岡での養神館合気道の普及活動を行っています。

稽古場所は、春日・筑紫野・糸島の三か所に行っています。親子を中心としたゆっくりペースでの稽古となります。

合気道は技法の修得を通して心身の練磨をはかり、平和で豊かな社会の実現に貢献する武道です。

相手との優劣を目的としないため、試合が無く、それ故、誰もが、いつからでも、誰とでも、出来る日本の武道です。

自分のペースで上達することが出来ます。



演武者

四段 脇山茂幸

二段 倉富久夫

二段 本山博文

二段 金富尚三

二段 瀬谷智之

一級 藤井美恵子

一級 藤木かおり

一級 中村睦

二級 波止久美子

天然理心流 心武館福岡道場



天然理心流 指南免許
心武館四代目館長

大塚 篤 昭和二十三年生

天然理心流は、江戸期以前の剣術派としては比較的新しい流派の一つであります。
 剣術も時代に合わせながら進化進歩しています。そのことは先達によい部分を集大成出来たことが有ります。
 天然理心流は、主に剣術、柔術、棒術、の三部門で構成された総合武術で有り、付随するものとして、居合術、気合術、活法、殺法等が有ります。

心武館の系譜

心武館は、当流二代目の宗家 近藤三助の弟子で有る松崎正作の流れをくみ、正作の息子、和多五郎のの弟子であった井上才市則清が、東京都あきる野市に明治二十二年に開いた道場で今日に至るまで、剣術の全ての技法が失われることなく受け継がれております。
 現、心武館館長は井上家当主の義弟にあたる、大塚篤師範が四代目館長として継承しております



演武者

初	初	木	木	木	陰	切	切	切	中	館
心	心	刀	刀	刀	境	紙	紙	紙	極	長
齋	松	東	吉	森	城	大	水	吉	大	大
藤	尾	谷	田	田	崎	成	本	田	成	塚
舞	芳	快	和	美	義	案	淑	哲	宏	篤
	照		道	佳	晴	和	子	也	昌	

福岡市なぎなた連盟 済美会



福岡市なぎなた連盟 理事長

荒木 圭子



済美会 三代目会長

相葉 洋子



演武者

佐久間	川崎	正崎	伊藤	中富	藤原	古城	井上	松尾	中村
シズ子	絹代	弥生	美由紀	美智子	恵美子	和子	伯子	順子	祥子

昭和三十年より「なぎなた」の復旧に努められていた古賀馨・一戸浩子・鈴木文子先生のご尽力により昭和五十二年に「福岡市なぎなた連盟」が創立されました。福岡市なぎなた連盟には、済美会・笹の会・梢風会と三団体有ります。

日本人の体質に応じた健康と美をつくり出し、気品・風格・礼節の養成にとめるよう努力を重ねております。古流や新しいなぎなた（仕掛け・応じ）・リズムなぎなた等が有り、左右対称に機敏な動作で柔軟性・合理的な力の使い方を学び、基本に重点を置き稽古に励んでいます。

「済美会」では「美しく成し遂げる」という意味を込めて名付けられた一戸浩子先生ご指導のもと、二代目会長荒木圭子と受け継がれてきた教えを大切に、福岡市内の各体育館で、日本古来の武道の精神を継承し伝統を守り技を練り、心を磨き、礼儀作法や仲間との和を大切に三十代から九十代まで六十一名の男女が生涯スポーツとして「なぎなた」の稽古に励んでいます。

福岡市スポーツ協会のご尽力に大変感謝して、一人でも多くの方になぎなたの素晴らしさを味わっていただきたいと思います。

